

第3次教育振興基本計画 基本フレーム（案）

■ 現状改善型アプローチ

● 現行計画の検証

項目	評価	課題

（今までのベクトルを前提に、今より良くなることを目指す）

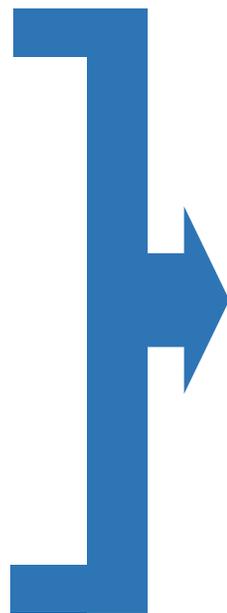
■ 未来構想型アプローチ

● 国が提示した未来 次期学習指導要領

● 信州が創る未来

未来像	現状	ギャップ

（実現したい未来像を前提に、逆算してやるべきことを考える）



基本理念

■ 学習県構想

■ 信州から未来を創る 先端プロジェクト

■ 重点政策

■ 総合体系（政策一施策）

信州教育の未来像

時代の潮流

〔 確実な変化と不確実な未来 〕

×

信州のポテンシャル

〔 信州はクリエイティブフロンティア 〕

信
州
教
育
の
未
来
像

【コンセプト例】

- さすが信州で学んだ子は一味違う
- 学びの時間を複線化し人を活かす
- 誰でもいつでもどこでも学び、学び直せる
- 中山間地はクリエイティブビレッジ

確実な変化 と 不確実な未来

確実な変化

世界共通

価値の源泉がProductの生産から
Knowledgeの創造へ

テクノロジーの加速度的進歩

長寿化(人生100年時代)

世界共通目標(SDGs ※)の追求

日本特有

人口減少

外国人との共働共生化

社会経済構造の大変動

予測困難な未来

[必要とされる力]

■ 起こったことに対応する力

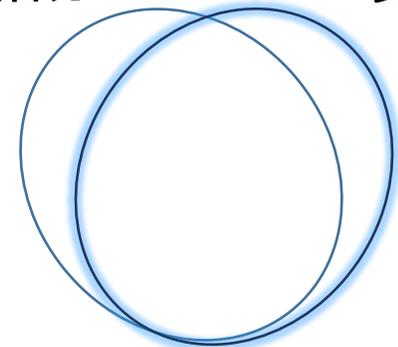
『変化適合力』

■ 何か新たなことを起こす力

『変化創造力』

変化適合力

変化創造力



※SDGs 持続可能な開発目標
Sustainable Development Goals
2015年 国連総会において採択

信州は“クリエイティブフロンティア”～感性溢れる叡智で未来を拓く「学習県」～

	農業社会 	工業社会 	知価社会※
価値の源泉	食糧の生産	Productの生産	Knowledgeの創造
方法論	農地拡大	労働集約・資本集約	叡智集約
山国信州の優位性	不利	不利	○(ポテンシャルとして)
逆境を克服し、新たな活路を見出す努力(例)	<ul style="list-style-type: none"> ○傾斜地の桑畑を利用した養蚕 	<ul style="list-style-type: none"> ○製糸工場から疎開企業を中心とした「軽薄短小型」の製造業へ ○山岳高原を活かした観光業 	<ul style="list-style-type: none"> ○テクノロジーの発達により、どこでもいつでも叡智集約が可能な時代に ○新たな知の創造のためには、創造性を育む環境こそが重要 ○創造性＝感性×知性 ○機械に代替されない信州ならではの「感性溢れる叡智」

五感を研ぎ澄まし知的に動く

感性溢れる叡智で逆境を克服

※ 堺屋太一（1985年）「知価革命 工業社会が終わる・知価社会が始まる」（PHP研究所）

学習県にふさわしいゴールを設定する(骨太のゴールイメージ)

	ゴール1	ゴール2	ゴール3	ゴール4
コンセプト	さすが信州で学んだ子は 一味違う	学びの時間軸を複線化し 人を活かす	誰でもいつでもどこでも学び、 学び直せる	中山間地は クリエイティブビレッジ
内容	<p>○国が定める方向性を基本価値と捉え、その上に信州で学ぶことの独自の価値を付加する。</p> <p>○信州で学んだ子は... ・自ら機会を創出し、機会によって自らを変えられる。 (フロンティアスピリット・学びの姿勢) ・多様性から価値を生み出すことができる。 (相互触発力・叡智集約力) ・土地の記憶を自分の財産としている。 (アイデンティティ・感性)</p>	<p>○画一的な学びの時間軸が、それに適合できない子の成長の機会を奪っている。</p> <p>○すべての子どもが、成長の実感を得られるよう、多様な学びの時間軸と、それにふさわしい多様な学びの場と方法を整備する。</p>	<p>○変化の激しい社会と人生100年時代の到来により、誰もが主体的に学習・再学習を繰り返す必要がある。</p> <p>○すでにある様々な教育資源と最新のテクノロジーを活用し、学ぶ場・学び合う場、学びの循環を創出する。</p>	<p>○知価社会のクリエイティブフロンティアという視点から、中山間地を捉え直す。</p> <p>○中山間地の学校を、学びの最先端として位置づけ、クリエイティブビレッジを地域とともに創り上げていく。</p>
方法論 (共通項)	<p>○テクノロジーを最大限活用する</p> <p>○自前主義ではなく協業主義で</p>			

ゴール1【さすが信州で学んだ子は一味違う】取組例

方向性	取組例
<p>幼・保・小・中・高を通じて、一貫性、連続性をもって育成する</p>	<p>【遊びから学びへの一貫性】 ……そのためには、<u>遊びの価値づけの共有がされていないのが課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児教育支援センターの設置 ○ 幼保・小・中・高 における教員同士の学びの循環 ○ 地域学園構想(校種間を越えた積極的な人事異動) <p>【テクノロジーによる一貫性の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一貫性を確保するデジタルプラットフォームの構築 <p>【高校入試改革】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 連続性へのカギ (例) 中学卒業時にPBL能力がどれだけついているか。
<p>自然教育、PBL (Project-Based Learning)、信州学をとことん追求する</p>	<p>【自然教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ESD教育 (Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育) の推進 ○ アウトドア体験教育の外部指導者(プロ集団)の活用 <p>【PBL、信州学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ PBL実施団体と協業するためのプラットフォームの活用 ○ PBLに集中的・効率的に取り組むためのカリキュラム開発 ○ 信州学からSDGsへの貢献(ローカルからグローバルへの発信)
<p>社会へ発信し、社会からフィードバックをもらうことで、信州教育の向上を目指す</p>	<p>「さすが信州で学んだ子は一味違う」ことを社会にアピールするとともに、本当にそうなっているかどうかを社会からフィードバックしてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 企業や大学からのフィードバックの仕組みを構築する。 ○ 「さすが信州で学んだ子は一味違う」ことをきちんと評価する大学への進学者数を増やす。

ゴール2 【学びの時間軸を複線化し人を活かす】 取組例

■ 困難を抱える子どもたちが希望を失わずに成長できる仕組の整備

全ての子どもが社会に適応できる多様な時間軸・多様な成長過程を容認する社会を目指して

- ↓ [来るべき未来の予想]
- ・ 新卒一斉採用 → 逐次採用社会への移行、在学期間の多様化、学びの場の多様化、学び方の多様化

【 多様な時間軸・多様な成長過程を実現するための方策 】

- ① 学校とサポート施設の連携促進
 - 不登校対策から不登校支援へ 不登校の児童生徒のための学校とは異なる学びの場の支援
- ② 学校の多様な受入の仕組み
 - 高校の中途退学者の学び直しの支援

■ 「得意を伸ばし不得意をケアする」学びと社会の創造

個々の発達特性が活きる「得意を伸ばし不得意をケアする」学びと、共に活躍できる社会の実現

■ 外国籍などの者に対する一貫した教育体制の整備

(学齢児童生徒)

- ・ 小・中学校の通常学級へ児童生徒をつなぐプレスクール(日本語教室)の増設やNPO等との連携

(中学校卒業資格を求める者)

- ・ 特別な教育課程により、日本語支援と学習指導を一体的に実施する「中学校夜間学級」などを設置

(日本を生活の拠点とする者)

- ・ 定住外国人など日本を生活の拠点とする者の自立・自活を支援

ゴール3【だれでもいつでもどこでも学び、学び直せる】取組例

■ 高等教育機関での学び

ミネルバ大学（※）のような、オンライン学習＋共同学習の場を県内大学の協調とテクノロジーにより、実現できないか。

※ ミネルバ大学とは、講堂や教室は一切なく、授業はすべてオンラインで、学生たちは世界中から参加経験や人脈を広げるため、学生たちは半年ごとに住む場所を変え、合わせて7つの都市に滞在（ロンドン、ベルリン、ハイデラバード、ソウル、台北、サンフランシスコ、ブエノスアイレス）

■ CLC（コミュニティ・ラーニング・センター ※）の連携、協働による学び

※ ユネスコが、「万人のための教育(Education for All)」目指して提唱する、日本の公民館をモデルとする地域住民の学びの場
ここでは、公民館、図書館等の社会教育に取り組む機関をいう。

- 県立図書館、歴史館等がハブとなり、学びから地域づくりを進める県内の人々や機関を結ぶCLCネットワークの構築、カンファレンスによる定期的な情報交換。
- 多様な世代の住民が『土地の記憶』を学び、あるいは学び直し、その魅力を次の世代に伝えていく取組（「ホーム感」の醸成）を全県的に展開。

ゴール4 【中山間地はクリエイティブビレッジ】 取組例

■ クリエイティブフロンティアの観点から、中山間地を捉え直す。(価値観の転換)

- 五感をフルに働かせて生きるクリエイティブな暮らし

■ 中山間地で「学びの最先端」の教育を推進する。

- 自然教育
- 異年齢集団で学ぶ
 - PBLを核としたカリキュラム、地域の人も学ぶ「寺子屋」型
- 企業をパートナーとした先進的な学び
 - 学習支援企業、通信教育企業
- ICT環境の完全整備
- 都市部の学校とのデュアルスクール